

# ● 第一号議案

## 2020年度 創邦21 事業報告

### 1 会議の開催

#### (イ) 総会の開催

2020年8月13日 午前11時より 定時総会開催 於 CAT オフィス

#### (ロ) 例会の開催

2020年 7月 2日 10時30分より	第191回例会	於 CAT 会議室
〃 7月 23日 11時より	第192回例会	於 CAT 会議室
〃 8月 13日 12時より	第193回例会	於 CAT 会議室
〃 9月 9日 13時より	第194回例会	於アコスタディオ
〃 10月 13日 12時より	第195回例会	於紫山会館
〃 11月 6日 10時30分より	第196回例会	於 CAT 会議室
〃 12月 13日 17時45分より	第197回例会	於 CAT 会議室

### 2 作品演奏会の開催

#### 第17回作品演奏会

主催：創邦21

日時：2020年10月23日（金）

18時開場 18時30分開演

場所：紀尾井小ホール(東京都千代田区)

制作協力：(株)シーエイティプロデュース

助成：芸術文化振興会

公益財団法人 アーツカウンシル東京 東京都歴史文化財団

公益財団法人 日本製鉄文化財団

曲目：『花の謂』（金子泰作詞／今藤長龍郎作曲／福原百之助作調）

『みち』（蓬萊泰三作詩／福原徹作曲）※改訂初演

『風に向かって』（今藤政貴作詞・作曲）

『融』（金子泰作詞／今藤美治郎作曲）

『オイディプス』（金子泰作／今藤政太郎・清元栄吉・松永忠一郎・米川敏子作曲）

### 3 東京都「アートにエールを！」(ステージ型)への応募と 創作のキモ+PLUSの開催

従来の公開講座「創作のキモ」よりも作品の演奏に重きをおく「創作のキモ+PLUS」公演を、東京都「アートにエールを！(ステージ型)」に応募し採択され、同公演を無観客にて開催。

主催：創邦21

公演日：2020年9月23日(水)

場所：紀尾井小ホール

内容：収録・編集しYouTubeにて無料公開。

「シリーズ・昭和の名曲を聴く①+ (プラス) 演奏

「しづかな流」(昭和34年)

作：中勘助 作曲：三世今藤長十郎 松原奏風

演奏者：杵屋巳之助 杵屋秀子 今藤政子 中川綾 中川敏裕 藤舎清之 (以上助演)、創邦21同人

狂言方：清野正嗣

### 4 創邦21 ホームページの運営

スマートフォン版へ変更

作品の音源公開、「ムービー作品」の制作と公開

新型コロナ感染拡大による公演自粛、舞台芸術活動の停止を受けて開始した「リレートーク」連載

アーカイブとして「公演記録」を更新

同人の執筆したエッセイ、レポート等の掲載

同人による同人インタビュー「創邦Q面」の更新

「きまぐれな今日の一曲」の随時更新

ブログの更新

### 5 第18回作品演奏会準備

2021年12月13日開催の第18回作品演奏会に向けての諸準備

### 6 新型コロナ感染の影響による活動の中止・延期

2020年3月13日に予定していた「創作のキモ」をいったん5月13日に延期したが、緊急事態宣言発出によりホール使用不可、再延期。

4月21日に予定していた例会を7月2日に延期。例会の回数を例年より減らし、感染状況の悪化した年明け以降の例会開催を見送る。

## 【総括】

1 2020年8月13日に定時総会、また同年7月2日の第191回から12月13日の第197回まで計7回の例会を行った。新型コロナウイルス感染拡大、緊急事態宣言による「ステイ・ホーム」奨励、ホール使用不可等々により、4月21日に予定していた例会は7月2日に延期。また感染状況が悪化した冬から春先は、主要な活動である作品演奏会も開催し終えたことから、12月13日を最後に例会は開けなかった。かわりにメールなどによって、顔を合わさずとも活動が継続できる工夫をした。

2 第17回作品演奏会は、「花鳥風月 人」というテーマを設け、その5つの文字を割り当てた曲を制作、上演した。当創邦21の演奏会としては初の試みである。

花なら花、鳥なら鳥という「テーマ」に対する距離の置き方や取り組み方、また作品そのもの、と幾通りもの聴き方ができる作品が揃い、それぞれの曲には制作者の個性が大きく現れていた。

協演者の顔ぶれも新味があり、若手、女流の方々に出演していただけたことは喜ばしい。

しかしこの時期に――感染症の蔓延が収まりきらず、密を避け風通しをよくすることが第一に叫ばれていたこの時期に、出演者数が増えてしまった。多くの方にたいへんなご協力もいただき、感染者も出さず無事に済んだのは幸いであったが、大いに反省するところである。舞台上・裏の感染対策については後述する。

お客様は少ないだろうという予想に反し、通常の半分にした席数はほぼ満席となった。有難いことであった。

感染対策として、紀尾井小ホールの方々とシーエイティプロデュースのご協力のもと、以下のことを行った。

- ・チケットは紀尾井ホールチケットセンターのみの扱いとした。創邦をよくご存じの一部のお客様がCATさんに電話で問い合わせされたケースもあった。
- ・お客様にはマスク着用をお願いし、建物玄関で検温と手指消毒。人との間隔をあけて行動していただいた。
- ・受付でのやりとりはできるだけ少なく。
- ・モギリ、プログラムを取るのはお客様ご自身で。
- ・楽屋との行き来、プレゼントの類はご遠慮いただいた。
- ・楽屋では密を避け、ひとりひとりの動線を決め、周知徹底した。誰も部屋にいない換気時間を設け、入れ替わりの前には消毒を行った。
- ・舞台上では、通常よりも間隔をあけて演奏し、演奏人数の多い曲は演奏者（特に唄）にマウスシールドをつけていただいた。

改めて、さまざまな方のご協力を得て開催できたことに深く感謝する。

この作品演奏会にご出演くださった堅田喜三久師が12月に、舞台監督を務めてくださ

った清野正嗣氏が明けて 1 月に亡くなられた。ご冥福をお祈りするとともに、謹んで哀悼の意を表す。

3 前述の通り、5 月 13 日に一度延期した「第 12 回創作のキモ」が、再延期を余儀なくされて宙に浮いた。新型コロナウイルス感染の影響で催しが中止・延期になった団体を対象とした東京都の「アートにエールを！（ステージ型）」に、「創作のキモ+PLUS」を企画し応募、参加公演に採択され実現できる運びとなった。

三世今藤長十郎・松原奏風作曲「しづかな流」を取り上げ、公演の前半では、制作された当時を知る今藤政太郎と米川敏子が今藤美治郎の進行で、今藤長龍郎の実演も交えて解説した。後半は助演者とともに演奏した。

「アートにエールを！」特設サイトにてダイジェスト動画が無料公開されている。

4 創邦 21 ホームページを継続的に運営し、アーカイブとして、また「エッセイ」、「レポート」、ブログなど読む物の充実も目指した。前年度末より始めた「同人リレートーク」は、もとは在宅中の同人を繋ぐ意図であったが、顔を合わせられるようになってからも緩やかに続いている。

スマホ版への対応も行った。今後はさらに重要度を増すインターネットでの発信・配信を、もっと積極的に行わなければならない。

5 第 18 回作品演奏会の開催に向けて準備を始めた。

6 深刻な感染蔓延の中でも活動を継続したことを大いに評価したい。何が起きてもその時々で可能な芸術の発信の形を模索してきたとの自負がある。

この経験を活かし、文化芸術を活性させる一助として、伝統芸能・邦楽の創作という分野から活動を展開させていきたい。

以上